

pierre cardin

《ラピスタ》

食器 84/106

昭和59年9月15日発行

昭和43年9月創刊
昭和44年3月6日発行

発行所 株式会社 総合通信社
名古屋市中区葵三丁目七二番スカイビル 千四六一

TEL 九三七一・九二二一

定価 八〇〇円
送料 二四〇円



- 1 ロービールグラスセット(10コ)
M71-1850 ¥1,800
- 2 アイスクリームグラスセット(5コ)
M71-2057 ¥2,000
- 3 タンブラーセット(5コ)
M71-1009 ¥1,000
- 4 ソンビーセット(5コ)
M71-1010 ¥1,000
- 5 水差セット(タンブラー5コ・カラフエ1コ)
M71-2056 ¥2,000
- 6 水割セット(タンブラー5コ・氷入1コ)
M71-2558 ¥2,500
- 7 水割セット(タンブラー5コ・カラフエ1コ・氷入1コ)
M71-3509 ¥3,500

これまでも佐々木硝子の期待にこたえて、
数々のヒットをとばしてきたピエール・カルダン。
黒と中間色の対比も鮮やかな《ラピスタ》は、
ヨーロッパの香りを運ぶ巨匠の新作。

グラスに新しい虹をかけた、カルダン。



佐々木硝子株式会社

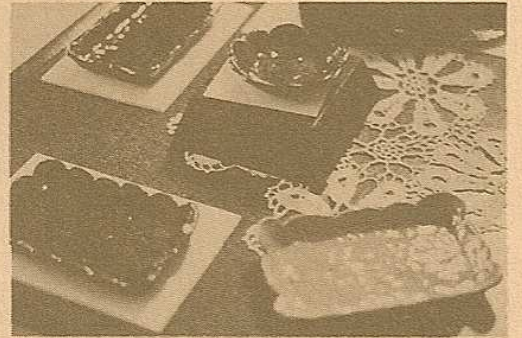
〒103 東京都中央区日本橋馬喰町2-2-6 ☎(03)663-1211

工芸を学ぶ在日外国人

研修期間中に陶芸展開いた

チューリン・

アイタさん



トルコ人のチューリン・アイタさんは、今年4月に国際協力事業団名古屋国際センターに派遣された研修員のひとりです。本国トルコのイスタンブールではミマルシナン大学美術部窯業科助教授の席にあって、やきものはいわば専門職。その彼女

も小ぶりの器ばかり20数点です。試作品程度のものですが、たまたま在日中に知り合った画家の三宅瑞穂さんの協力を得て、氏のプライベートルギャラリーM・MIYAKEで、6月30日〜7月14日まで、それらの作品展を開きました。

が今回の研修で学ぶのは、主に釉薬の着彩技術です。研修メンバーは他にアジアおよび中近東で同じように窯業に従事している人ばかり6名。週に5日間、岐阜県の高治見陶磁器意匠研究所に通って、釉薬の調整などに取り組んでいます。

本国トルコのペルシャ陶器とはガラリと違って、主に鉄釉を用いた手びねりによる作品が多く、日本的な土味を生かした仕上がりになっています。縁がどれも丸い花びら型になっています。縁がどれも丸い花びら型になっているのは、日本との友好を考え、平和に手をつなごうという気持ちからデザインしたといえます。

そのスケジュールのあい間をぬって、高治見の小さな窯元で陶芸に挑戦しました。本国では陶壁、オブジェなど大がかりなものに取り組んでいるアイタさんですが、時間の制約などがあって今回作ったものはこれ

また、トルコでの仕事ぶりは写真パネルで展示されましたが、こちらはうってかわってダイナミックな作品が多く、生(なま)で見れないのが残念でした。